

座長コラム「長岡の風」

第13回 2024年11月

「トランプと角栄」

長岡経済・産業連携会議 座長：高野裕

①経済と政治

今回の会議で、今後の経済状況についての報告があった。そこでは、アメリカ大統領選挙の結果が出ないと判断できないというような報告であった。そして、今、選挙結果が出たことから、いろいろな話がなされた。

②「もしトラ」

今まで、「もしトラ」などと言われ、まさかアメリカ大統領選挙でトランプ氏が当選するなんてことはないだろうけど、もし、トランプ氏が当選したら・・・などによくマスコミで話題になっていた。そんなことはないと思うけど、という前提で話が出ている。だから、我々もアメリカ大統領にトランプ氏になるなんてことはない、という前提でニュースをみていた。結果はトランプ氏の圧勝である。おかしいではないか、とは思うのだが、結果としてアメリカ国民によって選ばれた正真正銘のアメリカ大統領ということになる。我々は民主主義の社会で生活をしているのだから、結果がどうであれ、それは民意として受け入れなければならない。そうでなければ、民主主義制度は成り立たない。

③基本ルール

我々はマスコミやネット等を通じてアメリカの情報を見ていた。その情報と現実の結果は違っていた。ここが大事な点である。民主主義は投票権を持っている住民の意見で方向性が決まる。たとえ、どんなに理想的な方針があろうとも、選挙の結果選ばれた人の方針で次の任期期間、その選ばれた人に権限を負託したことになる。それが民主主義制度の基本ルールなのだ。では、民主主義はそんなに大切な制度なのかと考えると、あの、イギリス元首相ウィンストン・チャーチルの言葉を思い出す。「実際のところ、民主主義は最悪の政治形態とすることが出来る。これまでに試みられてきた民主主義以外のあらゆる政治形態を除けば、だが。」

④民意

兵庫県の県知事選挙が行われ前知事が再選された。選挙前のマスコミの論調を聞いていると、当然この前知事は落選するのだらうと思われていた。ところが、選挙の結果は再選である。それは、現実として自分たちの生活に直結する政策や制度などを目の当たりにしている兵庫県民の意見ということになる。マスコミ情報しかない他県人の意見と、実際にどんなことをやってきたのか、どんな発言をしてきたのかを見てきた住民の意見では評価が違ふ。評論家の意見ではなく、そこに生活している住民が自分たちの代表である県知事を選んだ結果こそ民意なのだ。それが民主主義制度なのだ。

⑤角栄

私はふと思い出す。あの総理大臣になった田中角栄の選挙。ロッキードやらピーナッツやらとマスコミにたたかれて、金権体質だの、賄賂だの、とにかくマスコミで派手に取り上げられた田中

角栄。これだけマスコミにたたかれたら当然、選挙では落選するはずだという空気が流れ、挙げ句の果てに対立候補として東京の有名人が地元の選挙区に立ってきた。これはとうぜん、地元長岡の人間は良識があれば田中角栄などには投票せず、対立候補の、あの東京の有名人に投票するのがまっとうな人間の投票行動だと言わんばかりの風潮であった。その結果、どうなったか、田中角栄の圧勝である。すると、なにか長岡人にはまっとうな人間はいないのかといわんばかりの空気が流れた。その、まさに長岡人の私は、そのとき東京にいてまわりの仲間に一生懸命雪国新潟の実情を説明したことを覚えている。

⑥恩返し

田中角栄が汚職だ賄賂だなんだと言われても、彼は雪に閉ざされた冬場、仕事がなく半年ほど東京に出稼ぎに行かざるを得なかった地域の人たちに、道路や橋、トンネルなどの工事を持ってきてくれて、一家の主のお父ちゃんを東京に出稼ぎに行かなくても良くなって、正月を家族で過ごせるようにしてくれた。とにかく、雪に閉ざされた地域に冬場の仕事を持って来てくれたおかげで家族が明るくなった。それはみな、あの角栄先生のおかげだと感謝している。だから、こんどは角栄先生が苦境に立っているとなれば、ここで恩返しをしなければならないと思うわけで、それが人の道というものだと地元の人は思った。間違っても、理屈だけの、あの東京の有名人などには投票しない。わたしは当時、そんな風に仲間に説明した覚えがある。しかし、そこで反論されたのは、国民の税金を新潟の一地方のためだけに使うような政治家は良くないという。だが、選挙は長岡地域の住民による選挙なのだから、長岡の住民が考えるメリットで投票することは問題なのだろうかとの疑問をもった。それは選挙制度そのものの問題というより、総理大臣を選ぶ日本の制度そのものの問題ではないかと思った。

⑦自分の生活

人は、理屈だけで動くものではない。感情の動物である。義理とか人情などは理屈や理論ではない。選挙というものは、理屈だけの判断で決まることではなく、そこに生活している生活者が判断することである。そこでは立候補した本人が主張していることばかりではなく、立候補者の普段の生活や行動なども全て含めて判断している。さらには、どの立候補者を選ぶかは、そこに住んでいる自分に取ってどの立候補者がよいかの結果である。投票するとき、人々は世界のことだけを考えて投票するのだろうか。それとも、自分の今の生活を考えて投票するのだろうか。世界より自分の生活の方が優先順位が高いと理解する。その結果がトランプであり、兵庫県知事であり、田中角栄であった。

⑧今後の流れ

結局、生活者が投票する現在の制度では、選挙結果は自分たちの地域中心の結果が導き出される。だから、経済が悪化している状況では内向きな政策が増えてくることになる。経済は政治に大きく引っ張られるから、今後は地域エゴの強い政策が世界的に増えてくるのだろう。